

【東高森台小学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年9月25日（木）午後6時30分～午後8時25分

2 開催場所

東高森台小学校 体育館

3 参加者数 21名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（東高森台小学校）

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 55 年度から令和 13 年度までの、東高森台小学校の児童数の推移は、昭和 59 年度の 607 人をピークに、令和 13 年度では 83.5%減少の 100 人と推計される。

- ・東高森台小学校は、今年度、児童数 122 人、6 学級で、学校規模は、全学年でクラス替えができない「過小規模」である。今後は、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・高森台中学校は、今年度、生徒数 285 人、9 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。令和 13 年度、19 年度、22 年度と、生徒数及び学級数は減少し、令和 22 年度では、クラス替えができない学年のある「小規模」と推定される。
- ・高森台小学校は、今年度、児童数 222 人、10 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では、「過小規模」と推定される。
- ・中央台小学校は、今年度、児童数 153 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後は、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。

<アンケート結果について> (資料 2～5 ページ)

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、東高森台小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 40.4%、地域の方で 75.0%となっている。
「反対」の方は、保護者で 28.4%、地域の方で 17.9%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」を心配する方が多い。また、高森台中学校区の高森台小、中央台小の 2 校を加えた「全体」の結果と比較すると、東高森台小学校の保護者は「賛成」の割合が低く、「反対」の割合が高くなっている。地域の方は、全体の結果と概ね同様となっている。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、東高森台小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。
小学校の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 90.9%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 56.9%となっている。その中で、東高森台小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 78.9%、児童では 39.7%となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「運動会などの行事でクラスに活気があること」、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」、「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。中学生では「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」を46.5%の生徒が選んでいるが、同様の項目を選んだ小学生は、高森台中学校区の小学生全体では34.7%、東高森台小学校では34.6%であった。「クラスが変わって」をイメージしにくいからか、中学生と比較し、低い比率となっている。地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。
- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をとても多くの方が重要と考えている。
- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

<本市の考え方について>（資料6ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和22年度では、高森台中学校はクラス替えができない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は、全学年で学級数が1学級の「過小規模」であると推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることや、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、高森台中学校区は、石尾台中学校区、藤山台中学校区、岩成台中学校区と接しており、高森台中学校は、直線距離で、石尾台中学校から約1.1km、藤山台中学校から約1.5km、岩成台中学校から約2.3kmの距離に位置している。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 高森台中学校については、「小規模」になると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問1】

アンケートの質問項目に小規模校だと具体的に何が困るのが書かれていない。小規模校のメリットも記載していないが、市は統合を前提に動いているのか。

【事務局】

統合を前提にしていません。アンケートの項目に記載はありませんでしたが、小規模校のメリットについては、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」に掲載しています。また、今回の意見交換会は皆様の意見を聞くことを主としています。

【質問2】

小規模校のメリットも提示しないと判断できないのではないかと。アンケートを行うなら、メリットとデメリットの両方を比較できることが大事だと思う。

【事務局】

小規模校のメリットについては、昨年度の2月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」に記載し、市ホームページで公開しています。しかしながら、そのリンク先にたどり着くことが難しかったと感じています。

小規模校のメリットはありますが、市としては、子どもたちの社会性や規範意識を高めるには一定の学校規模が必要と考えており、クラス替えを行える規模が必要と考えています。

【質問3】

中学校区内の小学校を統合するという文書が回覧板で回っているという話があった。どういう文書が回っているのか。

【事務局】

市からは、地域アンケートの協力を依頼したチラシと、今回の意見交換会の案内の文書を発出しており、統合が決定していると記載した文書は発出していません。

【質問 4】

高蔵寺リ・ニュータウン計画には、子育て世代の居住の誘導についての記載があり事業が進められているが、令和 22 年度の推計値に子どもの数が増えることは反映されていないのはなぜか。

【事務局】

令和 13 年度までは、現在の子どもの数に社会増減を加味して推計しており、令和 22 年度については、各地区の今後の人口減少率から推計しています。

高森台地区では高森台テラスの整備により、子育て世代が増え、子どもの数も一時的に増える可能性はありますが、それは令和 22 年度の推計には含んでおりません。しかし、全国的な人口減少や出生率の低下の状況のなか、現実的には人口増加は見込み難いと考えています。

【質問 5】

高蔵寺リ・ニュータウン計画等では子育てがしやすいことを押し出して人口増加を図っている一方で、教育委員会の推計に対する考えは悲観的な考えに感じる。市の他部門との連携はとれているのか。

【事務局】

リ・ニュータウン計画はニュータウン創生課が所管しており、教育委員会とは適宜情報交換を行っています。

【質問 6】

仮に統合して 3 つの学校が 1 つになった場合、学童の定員が気になる。学童は学校の中に必要だと考える。

また、春日井市は瀬戸市のように小中一貫校を考えているのか。

【事務局】

子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。

小中一貫校の導入については、現時点では決まっていますが、皆さまからの意見を聞きながら、必要に応じて検討していきたいと考えています。

【質問 7】

令和 22 年はまだ先のことのよう感じる。今どういうビジョンがあってこのような検討になるのかわからない。何を見てこの施策を行うのか。何が一番大事だと考えているのか。

【事務局】

一番に考えることは、子どもの教育環境の向上です。タブレットの使用など学習の仕方や、学校の外での子どもの過ごし方も変わってきた中で、学校での子どもたちの社会性の育成は重要さを増していると考えています。子どもたちが社会性を身につけるには、ある程度の学校規模が必要であると考え、学校の適正な規模の取組を進めていきます。

【質問 8】

今後のスケジュールを知りたい。検討する期間はどれだけあるのか。

【事務局】

まずは、検討の対象となっている各中学校区内の小中学校で 1 回目の意見交換会を実施しています。そこでいただいた意見をまとめて、各中学校区の単位で 2 回目の意見交換会を実施したいと考えています。

その後、保護者、地域の方、学校関係者の代表の方で協議会のようなものをつくり、具体的な検討を進めていきたいと考えています。

地域の皆さんとの合意形成のタイミングにもよりますが、仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合は、設計と工事の期間で 5 年程度必要となります。

【質問 9】

2 回目の意見交換会の開催はいつか。

【事務局】

年内の実施を考えています。

【質問 10】

今回のスケジュールの参考にするため、藤山台小学校が統合した際のスケジュールを聞きたい。

【事務局】

平成 22 年 4 月に藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年 2 月には「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合

計画」が策定されました。平成 25 年に藤山台小学校と藤山台東小学校の 2 校が統合したので、3 年程前から協議会で検討を行っていました。

今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。

【質問 11】

資料に隣接する他中学校区の中学校との距離の記載があるが、他の地区の中学校の令和 22 年度の推計はどうなるのか。

【事務局】

各中学校の令和 22 年度の生徒数及び学級数の見込みは、藤山台中学校は生徒数 73 人、学級数は各学年で 1 学級、石尾台中学校は生徒数 129 人、学級数は各学年で 2 学級、岩成台中学校は生徒数 91 人、学級数は各学年 1 学級となります。

【質問 12】

中学校区を越えて統合を実施することもあるのか。他の中学校区の学校に行くことが近い場合もあるので、通学距離も考慮して検討してほしい。

【事務局】

推計のとおり子どもの数が減っていくと、他の中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要があると考えています。皆さんの意見をお聞きする中で、必要に応じて、通学区域の変更についても検討していきたいと考えています。

【質問 13】

過小規模校のデメリットについて、具体的な例があれば教えてほしい。
また、運動会を他の学校と合同で行うなど、統合以外の方法で子どもの成長を促すような対応を考えてもらうことはできないのか。

【事務局】

過小規模校のデメリットとして、人間関係でトラブルがあった場合に、距離をとるように配慮したいと思っても、クラス替えができないことで対応が難しいことがあります。

また、小規模校同士で、合同で行事を行う学校もあります。修学旅行の日程をあわせた事例がありますが、校外学習などは学校同士の日程の都合が合わず、実施できなかったとも聞いています。

【質問 14】

学年に1学級でも困ったことはなく、先生が手厚く教育してくれて、子どもの成長に問題は感じていない。親が一番心配に感じているのは、通学の安全性である。安全性に問題がある通学路や長い距離を歩かせるなどの課題は、バスを走らせることで解決するのではないか。

【事務局】

登下校の課題については、アンケートの結果でも表れており、保護者の方が一番心配している項目となっています。バスの運用に関しては、スクールバスの導入や路線バスの利用など様々な方法があり、検討していきたいと考えています。

【質問 15】（意見）

学校規模の適正化は、市側は適正と思っているが、住民には適正とっていない人もいるので、アンケートの質問の表現には気を付けたほうがよい。

【質問 16】

今回対象としている5中学校区を全部統合した場合、令和7年度の児童生徒数、学級数はどうなるのか。

【事務局】

ニュータウン地区と坂下地区とは地理的な隔たりもあることから、坂下地区を除くニュータウン地区内の小学生を合計すると、令和7年度で1,853人、57クラスとなります。過大規模の学校となるため、現状ではニュータウンで1校の案は現実的ではないかもしれませんが、子どもの減少を考えると将来的には議論が必要になるかもしれません。

【質問 17】

クラスの数が多くなり過ぎた場合のデメリットを聞きたい。

【事務局】

一般的に規模の大きい学校の課題として、学校行事において、係や役割分担のない子どもが現れる可能性があるなど一人ひとりが活躍する場や機会が少なくなる場合があること、同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合があることなどがあげられます。

【質問 18】

現在、東高森台小学校が過小規模であるということが影響して、保護者の意見で反対が多く、賛成が少ないのではないのかという分析だが、他の地区ではどうか。

【事務局】

他の学校の結果をみると、反対が賛成の割合を上回ることはありませんが、過小規模校の方が、保護者の反対が多くなる傾向にあります。今の学校に不満がなければ、無理に適正規模等の検討を進めなくてもよいと考えている方が多いのではないかと分析しています。

【質問 19】

今回の意見交換会について、今検討のどの段階なのか、全体的な位置づけがわからない。統合や通学手段が決まった段階で意見交換会を開いてもらえるのか。

【事務局】

意見交換会については、検討の段階という位置付けです。今後も、皆さまからの意見をお聞きすることは継続していきます。

【質問 20】

資料をみると「検討を進める」という表現があり、焦りを感じた。意見交換会に仕事などで参加できない方もいると思うので、情報は具体的に示してほしい。

【事務局】

議事録を作成して、市ホームページにて内容を公開します。速やかな情報提供に努めていきたいと考えています。

【質問 21】

市は学年に複数クラスあることが望ましいとのことだが、具体的に何パーセントの方が賛成したら、統合を進めていくなどといった基準はあるのか。

【事務局】

具体的な基準はなく、皆様の意見を聞きながら検討を進めていきたいと考えています。

【質問 22】

アンケートの結果だけで、住民の意見が全て反映されているとはいえないと思う。アンケートに掲載されている情報も不十分である。アンケートの結果をどれだけ重視するのか。

【事務局】

数値では賛成の方の割合が高くなっており、この結果は参考にさせていただきます。全ての方が同意するという事は現実的ではないため、市がどこかのタイミングで判断することが必要と考えています。

【質問 23】

検討していく上では、いろいろな意見があがると思うので、徹底的に検討して欲しい。反対の方の意見もたくさん聞いて、それをクリアして次のステップに進めると思う。

【事務局】

今後の進め方の参考にさせていただきます。

【質問 24】

小規模校のメリットやデメリットについて、より分かりやすく理解できるように、学校生活や授業などの具体的な例を用いた表現はできないのか。

【事務局】

今後の議論の中で、具体的な情報を示していきます。今回の意見交換会は皆さまの意見を聞くというのが主旨なので、今後検討していきたいと考えています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を高森台中学校区の各小中学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は高森台中学校区の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、高森台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後8時25分 閉会